

有限会社 キーポイントホーム

工藤 様邸

ユーザー訪問

DATA

五所川原市姥蒨

2013年7月竣工

■延べ床面積/30.00坪(99.37㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、床、内壁、一部外壁)、スギ集成材(ベンチ収納)、カラマツ(梁)など。



「地元の木で建てよう」
「地域ブランド」に熱意

奥様の話 阿保さん(阿保勝之社長)のことは、まだ小学生だった頃から知っていました。23年前に、両親が家を建てたときの住宅会社の担当営業マンが、阿保さんだったんです。母はすっかり阿保さんが気に入っ

切妻屋根の南面に並ぶ太陽光パネルが、秋晴れの陽射しを受けて光っていた。縦に4枚、横に6枚で合計24枚。(有)キーポイントホームの展示場と同じ屋根一体型の太陽光パネルを搭載した工藤様邸である。ご夫婦に迎えられて、リビングングに入ると、壁際に置かれたベンチ収納からご婦人が立ち上がって挨拶をした。奥様のお母様だった。「実は、わたしも以前、阿保さんにお世話になって家を建てたんですよ」――興味深いそこから話をうかがうことにした。



白い部屋の壁と調和して美しい木目が映えるスギの床板



スギやカラマツをふんだんに使用したリビング。空間に斜めに張り出した階段部分(写真中央上)にも木を張ってポイントしている



遊び心が感じられる階段下の収納スペース

て、母の妹が家を建てるときも阿保さんを紹介したんですよ。ちよつとしたことがあると母はすぐに阿保さん阿保さんってね。いつもニコニコしながら親と接している阿保さんが、わたしにとつても無意識に身近な存在になっていたんでしょうね。

お母様の話 阿保さんが独立して、今の会社(旬キーポイントホーム)を興してからも、お付き合いはずつと続いています。そのご縁が、今回、娘夫婦

にも結び付いたということですね。

ご主人の話 私が阿保さんと初めてお会いしたのは、妻に勧められて展示場(『地域ブランドの家』を見学したときです。阿保さんが「木」の良さについて熱心に話をしてくれました。実は私はそれまで鉄骨造に関心があったので、かえって鉄とは逆の木に新鮮な興味がわきました。阿保さんが勧めるのは単に「木」ではなく、青森県産の



収納スペースの機能も備えるリビングに配置されたスギ集成材のベンチ

「木」なんです。なにも外国から買ってこなくても、周囲の山々には木がふんだんに育っている。これらの地元の木を使って家を建てよう——その心意気が『地域ブランド』のネーミングに込められているのですね。キーポイントホームの「キ」は「木」のことなんですよ、と言われて合点しました。

奥様の話　ほんとうは去年（2012年）のうちに建てる計画だったんです。初めての子

が生まれる予定でしたから、親子3人、新居で暮らそうって。でも、今話しましたように、主人はあるハウスメーカーの鉄骨の家が気に入っていて、私を営業マンに引き合わせようとしたんですけど、そういうときに限って体調が悪かったり、どうもうまくいかなかったんですよ。それで、いったん白紙に戻すことにしたのですが、計画そのものを白紙にしたわけではないので、うちの母に、どこかいいところないかな、って話を持ちかけたら、阿保さんのところはどうかな、って。わたしも、主人がハウスメーカーで話を進めているのを横目で見ながら、阿保さんのことは常に頭にありました。

お母様の話　電話をかけてみたら、「ちょうど今、弘前市の泉野に展示場を建てているところ」だということで、阿保さんが、「ぜひ見に来てくださいよ」ってね。話は縁のある方向に進むものですね。

有限会社 キーポイントホーム



泉野展示場 『地域ブランドの家』

展示場訪問

DATA

弘前市泉野3丁目11の11

- 延べ床面積/45.37坪(150.29㎡)
- 使用青森県産材/ヒバ(土台、浴室)、スギ(柱、床、腰壁、1階建具、カップボード、飾り棚、洗面台)、タモ(2階建具、テレビボード、収納棚)など。



県産材へのこだわりを感じさせる展示場の看板

「第6回あおもり産木造住宅コンテスト」の応募パネルが、10月(2013年)に青森産業会館(青森市)で開かれた「すまいアップフェア」の一角の壁面に掲示されていた。コンテスト実行委員会のメンバーが、来場者に用紙を差し出し、「一般投票」を依頼する。「住んでみたい・購入してみたいと思う住宅を一つ選んで、その番号を記入してください」。票数と審査委員の審査から、最優秀賞、優秀賞、特別賞が決定するのだ。用紙を手に

した男性が、1枚のパネルの前に立ち止まって、見入っている。床が板敷きで、天井にも木の梁が見えるリビングの写真。その脇に『地域ブランドの家』と書かれてあった。

「床暖してるんですか」 無垢材のスギの温かさ

(阿保勝之社長にインタビュー)

展示場の『地域ブランドの家』がオープンしてから1年ですが、来場者の反応はいかがでしょうか。

阿保社長 見学に来られた方から、まず最初にこう質問されます。「この床は何の木ですか?」と。ほぼ皆さんからそう聞かれます。無垢のスギです、と答えます。青森県産のスギです、と。この県産スギがまずは「地域ブランド」の一つです。

次に、「ムクつて何?」と聞かれます。特に若い人たちが多くですね。山から伐り出した原木を乾燥させて、製材したのが無垢材。それに対し、貼り合わせた工場生産の木が集成材です。若い人たちは、集成材とか化粧合板フロアなどの「人工の木」を主に使って建てた住宅で育ってきている世代ですから、無垢材が身近でないのは無理もないことです。

次に聞かれるのは、スギの床です。「床暖房してるんですか?」と。床暖房は入っていません、と答えると、えっ、と意外な顔をされますね。床暖房しているように足元があったかいんですよ。そこで、木の持つ性質につ

いて話をするわけです。足元が温かいのは、室内の熱を溜め込むという木の持つ保温性のためで、自然の恵みなんです。最近、床に無垢の板を張った住宅が増えているのは、そうした木の特性が見直されてきた現れでしょう。

もう一か所、「床暖ですか？」と聞かれる場所があります。リビングの続きの和室です。和室の、畳です。ここも足元があたたかいんですよ。天然のイグサを使って莫蔭（畳表）を網代に編

み込んだもので、莫蔭を縦横に編むことよって、イグサとイグサの間に隙間すきまができるのです。そこが空気層になって、室内の熱が蓄えられるわけですね。

もともと湿度の高い日本の気候風土に合う素材として畳に使われるようになったイグサを、網代に編むことで、夏場は湿気がなく、冬場は温かい肌触りをもたらしてくれるのです。畳を作ったのは地元弘前の職人です。この職人技も「地域ブランド」の一つです。



来場者を誘うスギの木の温もりが印象的なエントランス



和室の天然のイグサを使って網代に編み込んだ畳表は、夏涼しく、冬は暖かい

自然や地域大切にす 「考え方が気に入った」

—木やイグサのほかに「自然の恵み」を取り入れているのですが。

阿保社長 「風」です。一般にエアコンの冷房効率を良くしようと窓は小さく取る傾向がありますが、木の保温力と同様に、風の力も生活に取り入れたいものです。リビングの窓を、風が入りやすいように大きな掃き出し窓にすることによって、床を伝って二階へ通り抜けていく風が、室内にこもる熱と湿気

を取り除いてくれるのです。涼しい風の心地よさを得るには、ただ窓を大きくするだけではなく、建物の断熱性も関係あるのですが、それは次にお話しします。

「太陽光」の恵みも存分に取り入れています。屋根に太陽光パネル（太陽光発電モジュール）を21枚設置し、最大3・99キロワット発電できるようにしています。展示場はオール電化住宅ですが、電気代は年間で2万円です。外から見ても屋根のパネルに気が付かないのは、屋根と一体型になっているから



木の温もりに抱かれてぐっすり眠れそうな寝室



格子状に組まれた太い梁や床・腰壁にと、ふんだんに無垢の県産材が使用されているリビング



浴室の壁には県産ヒバが使用されている



で、表面がフラットですから積もった雪も暖気すればひとりでに滑り落ちます。

さきほどの断熱の件ですが、展示場に限らず当社の住宅は、外断熱と内断熱のダブル断熱を採用しています。外側には板状の断熱材（ポリスチレン・プラスチック樹脂）を張り、外壁との間に通気層を設けています。内側の壁には綿状の断熱材（ロックウール）を吹き込みます。屋根も二重の断熱構造です。断熱性だけでなく気密・遮

熱性も高く施工しているからこそ、吹き込む風の涼しさも肌で感じ取れるのです。

それに、断熱が悪くて光熱費などランニングコストが高くなるのでは、年金生活の負担となつて、快適な生活は送れませんからね。

——浴室に張ってあるヒバ板にカビは発生しませんか。

阿保社長 発生しません。皆さん、いいなあ、と言われるのですけど、きちんと手入れしなければカビも発生します。マメな方でなければお勧めできません。ただ眺めている分には、ヒバは木目が綺麗で、香りもいいですが、そういう現実問題が出てくることを正直に伝えるのもわれわれの役割ですね。

——見学された方々の感想のうち、印象に残っているのは？

阿保社長 「家の造りよりも、自然とか地域を大切にすること、あなたの考え方が気に入った」というお言葉。励みになります。



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
www.ki-pointhome.com/
E-mail : staff@ki-pointhome.com



健康住宅工房 ライフ

金澤 幹治 様邸

ユーザー訪問

DATA

岩手県九戸郡洋野町

2013年12月竣工

■延べ床面積/38.00坪(125.87㎡)

■使用青森県産材/スギ(柱)、アカマツ(玄関ホール床)、ヒバ(玄関ホール腰壁)、カラマツ(梁)など。



家を建てるのが人生最良の時——。家族が健康で、職場での仕事も順調で、親も達者という、長い人生のうちで最も晴れ渡っているときに建てようと思うのが「家」である。若夫婦の金澤幹治様と奥様が、念願のマイホーム建築を依頼した工務店は、自然素材の木と漆喰で建てる健康住宅工房ライフ。引越しを予定している12月22日の前日、雪の舞う中を、ご夫婦の様子を見に現場を訪れた。逸る気持ちを抑えかねるように奥様が玄関に近づいていって、ドアを引いた。思わず、「すごい！」。

リビングに丸太の大黒柱 暖房は薪ストーブ1台

奥様の話 もう感動しちゃってね。玄関ホールの床も木、腰壁も木、正面の引き戸も木で、木の空間が一気に視界に飛び込んできたんですよ。これが自分

の家なんだって。その素直な感想が、「すごい」だったんです。楽しみにしていたんですよ、完成するのを。12月も中旬を過ぎ、引越しを22日に予定していましたが、どんな様子かなって主人と見に行ってみたら、大工さんたちが黙々と働く現場は足の踏み場もないような状態で、正直、あと1週間でほんとにでき上がるのかなと思っただけですけど、漆戸社長

(漆戸悟社長)が、「大丈夫だよー」って。その通りに、1週間前とは見違えるように綺麗になっていたので、漆戸社長に、「間に合っただすね」って言うたら、「間に合ってたんです」と笑っていました。

ご主人の話 引越しの前日に、この家のリビングで昼過ぎから「家の本」(『青森県産材でエコな家づくり』Ⅳ)の取材を受けたんですけど、ちよつと寒



“木の空間”が一気に視界に飛び込んできた、という玄関ホール



リビングの木の床は保温性が高く、冬でも暖かい

くなってきた、電気ストーブの
 スイッチを入れたときに、あれ、
 今までストーブが点いていな
 かったんだと気が付きました。
 それほど室内が暖かかったとい
 うことですね。午前中は大工さ
 んたちが最後の片付けの作業
 をしていたそうですから、その
 ときの暖房の余熱で暖まってい
 たんです。でも、いくらそうと
 はいっても、外は雪が降っている
 冬日ですから、今まで住んでい
 た社宅なら震えていたところ
 ですよ。

奥様の話 断熱性もそうです
 けど、もう一つ、驚いたことがあ
 るんです。1階の客間の窓か
 ら、外で水道工事をしている業
 者さんたちの様子を見ていた
 ときに、音が遠く感じられたん
 ですよ。姿はすぐそこに見えて
 いるのに、音は遠くから聞こえ
 てくるような……。窓をちよつ
 と開けてみたら「暴音」が飛び
 込んできました。閉めると、遠
 のきます。結局、サッシの防音性
 が高いですね。自分の家が高
 性能だということは気分の良



堂々とした風格を感じさせるスギ丸太の大黒柱



リビングの壁一面に張られ、川の流れのように見えるスギ板の壁はご夫婦のお気に入り

いものですね。

——お気に入りの場所はどこですか。

奥様の話 やっぱりリビングです。対面式になっているキッチンに立てば、薪ストーブも大黒柱も見えますしね。特に、リビングの壁一面に張った赤っぴい

スギの板が気に入っています。

漆戸社長によると、スギの根木（根元の部分）を使ったんだそうです。1枚1枚の木目が川の流れを描いたみたいで、溪流の絵のように見えます。本物の木でしか出せない味わいですよ。主人も気に入っています。

保温・吸湿性高いキリ 寝室やクローゼットに

——ライフに依頼したいきさつは。

ご主人の話 実は、妻の父親から、「ライフの家づくりは違うよ」と教えられていて、頼むならライフにしよう決めてはいましたけど、一応、八戸市内にある住宅展示場を何軒か見学してみました。でも、展示場には生活感がありませんでしたね。豪華なだけで、価格も高いし。ライフが直営店（パートナー）になっているという夢ハウス（本社・新潟県）の規格住宅「郷の家」（展示場）が盛岡にある、と漆戸社長から教えられ、



必要に応じて床を敷けば物置にもなるロフト



玄関内に取り付けられた木製のキーボックス
(トイレ内にもペーパーボックスとして設置)




キッチンに隣接する洋室。ここにも木がふんだんに

妻と見学に行きました。
奥様の話 ほんとうは主人が建てたかったのは木の家ではなく、モダンな家だったんです。よく雑誌にも載っている、床とか壁とかが黒っぽくて、キッチンなんかも黒っぽくて、洗い空間なんかも黒っぽくて、主人も木の家のファンになったようです。木にはやさしさがありませんよね。見た目にも、触った感じも。漆戸社長が、ライフでは化粧合板やビニールクロスなどの「工

業製品」は使っていない、と言っていたけど、それだけわれわれ建て主の「健康」を気遣った家づくりをしているということなんです。
ご主人の話 階段とか2階の寝室の床にはキリが使われています。キリは中に空気層が多く含まれているから、その保温効果で温かいんだそうです。実際にわが家も足裏がちつとも冷たくありません。子供を裸足で遊ばせられますよ。寝室の隣のウォークインクローゼットは床も壁も天井もキリです。キリには温かさのほかに吸湿効果もあるんだそうです。
奥様の話 階段を上がって行くくと、木の床の広いワンフロアになっていて、そこが子供部屋です。小さいうちは仕切らずに開放して使わせようと思いついてね。上の3歳の子が好きなおモチャのボーリング場にもなります。寝転んで遊んでも化学物質の害がないから、それがいちばん安心です。

いえ しあわせ ゆめ
家づくり 幸づくり 夢づくり

 **健康住宅工房 ライフ**

夢ハウスパートナー

八戸市石堂3丁目3-9 2階

TEL.0178-80-7357 FAX.0178-80-7318

E-mail: info@kenkojutaku.jp



健康住宅工房 ライフ

浪打 様邸

ユーザー訪問

DATA

八戸市尻内

2013年12月竣工

■延べ床面積/54.00坪(178.86㎡)

■使用青森県産材/スギ(柱)、アカマツ(梁、2階床)、カラマツ(梁)など。



あたたかなバレットストーブのそばで談笑する漆戸社長(左)と浪打様ご家族

八戸駅の北側、尻内の新興住宅地に完成した浪打様邸で12月初旬(2013年)に完成見学会が開かれた。「当社の見学会って、同窓会になるんですよ」と漆戸悟社長が笑って話す。次々と訪れる見学者のうち、挨拶を交わし合うのはライフのユーザーたちなのだった。昨年建てた人、一昨年建てた人、何年前かに建てた

人……。ダイニングのテーブルに向き合ってにこやかに話す光景はまさに同窓会。「20年、30年経っても、どうですか、じゃなく、大丈夫でしょ、って自信を持って訪ねられる家を建てていきたい」と漆戸社長。家づくりへの真摯な思いと、温もりある無垢の木のような人柄に人は集まってくるようだ。

**化学薬品の臭いが無い
無垢の木と漆喰で健康
奥様の話** うちの二男と、漆戸さん(漆戸悟社長)のご長男が同じ中学の野球部だったんですよ。6年前のことです。未っ子の娘も野球部に所属していたくらいわが家では野球好きで、特に主人は、狂が付くほどなんです。漆戸さんも負けず



ストーブの火と床の木目が暖かな雰囲気をかもし出すリビングルーム



車椅子に対応して廊下の幅を広く取ってある

劣らず試合があれば喉を枯らして応援していましたよ。それからのお付き合い合いません。

八戸駅前の区画整理地内に家があつて、代替地に建て替えなければならなかつたんです。市で割り当てた代替地が、7人家族には駐車スペースが足りなくて、それで代わりのもつと広い土地を探していたところ、漆戸さんが情報を寄せて

くれたこの土地が見つかったんです。

建ててもらうのは最初から漆戸さんに決めていましたから、キッチンは対面式にしたい、将来の車椅子に対応するため廊下を幅広く取りたい……といった要望を伝えて、1回か2回の打ち合わせで間取りは決定しました。床に何の木を張るかとか、色をどうするかといっ

た細々としたことは、漆戸さんに一切お任せでしたね。

——ライフの家の特徴は何ですか。

奥様の話 臭いがしないんですよ。化学物質のあのつんとする嫌な臭いがね。『うるるん通信』（ライフ発行の月刊広報紙）で見学会があるのを知って何軒

か見に行きましたけど、ぜんぜん臭いがしませんでした。「他社と違って工業製品だらけの家じゃないんだから」と漆戸さんが言われるとおり、ほんと、まったくしないんです。さっき、見学会に来ていらっしゃったお客様も、それは言っていましたよ。だからライフの見学会には

小さな子供も安心して連れていけるって。そのお客様も、今まで何年もライフの家を見学してきて、いよいよ来年建てることになったそうですよ。

——暖房はペレットストーブだけですか。

奥様の話 1階の奥の両親の部屋とか、2階の3室は個別の

暖房器具ですけど、キッチンとダイニング、リビングのワンフロアはペレットストーブです。今まで使ったことがないので、これ1台だけで大丈夫かなと思っていたんですけど、見学会に娘と2人で来てみたら、暑過ぎて窓を開けるくらいでした。お嬢さんの話 火を焚くのが好きなんですよ。新郷村の迷ヶ平まよがへでよくキャンプするんですけど、夏場じゃなく、春とか秋なんです、火を焚くためにね。これからは冬じゅう炎見てキャンプ気分が楽しめますね。

建てたお客様から次へ伝えたい「木の良さ」

——階段材に使われているのはキリですか。

漆戸社長の話 そうです。県産じゃありませんけどね。キリって、中に空気層が多くあるから保温効果もあって足触りがあつたかいので、浪打様邸ではご両親の寝室の床にもキリを使っています。



キッチンとダイニング、リビングの暖房はこのペレットストーブ1台でまかなわれる



階段やご両親の寝室の床には保温性の高いキリの木が使われている



——見学会で施主が接客するのはユニークですね。
 漆戸社長の話 社員だけでは
 応対しきれないので、大助かり
 です。それに、実際に建てられ
 た方の話のほうに、現実味が伝
 わりますからね。説得力がある
 んですよ。バトンタッチするみ
 たいに建てたお客様から次の
 お客様へ「木の家の良さ」が伝
 わっていきやすいですね。20年、
 30年後に「大丈夫でしょ」って訪
 ねていきますよ。

いえ しあわせ ゆめ
家づくり 幸づくり 夢づくり



健康住宅工房 ライフ

八戸市石堂3丁目3-9 2階
 TEL.0178-80-7357 FAX.0178-80-7318
 E-mail : info@kenkojutaku.jp



建築組パックス 有限会社



K 様邸

ユーザー訪問

DATA

八戸市

2013年10月竣工

■延べ床面積/59.62坪(197.50㎡)

■使用青森県産材/スギ(柱、2階床、建具)、ク
リ(1階床)、ケヤキ(大黒柱、梁)、エンジュ(床
柱)など。

そろそろ暖房がほしくなる
11月初め(2013年)、竣工
したばかりのK様邸で薪ス
トープの試験焚きが行われ
た。「いちばん大事なことは、
薪が充分乾燥していること。
次に、焚き付けで煙突を暖め
てから薪をくべること」と取
扱いの注意事項をストープ販
売店の担当者が説明する。そ
の横で、記録のビデオカメラ
を回しているのはK様のご長
男だ。ご主人が県外に単身赴
任しているので、小学生なが
らも、これから毎日焚くス
トープの操作を母親任せにで
きないという家長としての自
覚が目についていた。

「木の家」は長持ちする
何世代にもわたって住む

ご主人の話 子供たちや孫の
世代まで引き継いで暮らせる
家を建てたい、とまず考えまし
た。100年以上も長持ちす
る家となると、やはり木造です

よね。世代に合わせてリフォー
ムしながら暮らして、ついに寿
命がくれば土に還る家。そう考
えて、「木の家」を建てる工務店

探しから始めました。
奥様の話 主人の仕事先は
今、岩手県にあります。関東方
面から岩手に転勤になったんで



スギの木目が優しくあたたかい空間を演出している2階ホール



大きな開口部から陽光が射し込むリビングルーム



薪割りなど子供たちにも役割を与えようと設置した薪ストーブ

す。岩手からなら、主人の郷里の八戸までは週末に帰ってこれます。それで、いよいよ家を建てることに決めまして、インターネットで「木の家」を建てる工務店を検索してみたんです。何社かヒットした中で、八戸市の建築組パックス(株)に展示場があることを知りまして。主人が週末に八戸の親の家に帰った際、パックスの展示場を訪ねて、大西さん(大西昇社長)と出会いました。

——展示場をご覧になって、薪ストーブを設置しようと思われたのですか。
ご主人の話 いえいえ、初めから建てる家には付ける予定でした。ほんとうは囲炉裏がほしかったんですよ。炉端に座って火を眺めるくらいくつろげるものはありませんからね。一步譲って、薪ストーブにしたんです。薪ストーブでも火は楽しめますからね。それと、もう一つには、子供たちにも役割を与えようと思っただけです。石油ストーブなら操作はボタン一つですが、薪ストーブとなると、いろいろと作業が発生します。薪を



吹き抜け部分で力強く交差する大黒柱と梁は県産ケヤキを使用

割ったり、小屋に積み上げた
り、乾燥させておいた薪を家の
中まで運んだり……。火を点け
るのは妻がやりますが、火が消
えた後の灰の掃除は子供たち
にもやらせようと思うんです。
薪で風呂を沸かしていた昔の
暮らしては、薪割りも、風呂を
沸かすのも子供が手伝っていま

したよね。そういう具合に、薪
ストーブを通じて、子供たちに
も「生活」に参加させるという
ことです。小さいうちから便利
な生活に慣れ過ぎると「生活実
感」が薄くなるのではないで
しょうか。日々の生活の中にこ
そ教育の原点があると思うん
です。「親子の対話」などと改め

て言わなくても、一緒に薪割り
でもしていれば自然と会話し
ているでしょうね。

柱はケヤキ、建具はスギ 時が経つほど木肌に味

奥様の話 おお客様が集まる機
会がけっこう多いので、お通し
する和室の二間続きの空間が
あまり窮屈な感じにならない
ようにと、大西さんに要望しま
した。二間続きの仕切りの襖戸
は、ふつうは4枚で、左右に開
けると、開口部の間隔は1間
(約1.8メートル)ぐらいです
よね。それだとちよつと狭苦し
いんです。そこを工夫して、も
うちよつと広くならないかと。
そうしたら、大西さんが6枚戸
にしてくれました。これだと開
口部がずいぶん広くなって、
襖戸の存在がないかのような
開放感が出ました。それと、和
室の入り口戸も3枚にして片
側に収めてしまえるようにし
てくれたので、出入り口もゆっ
たりとしました。

——木目が実に綺麗な建具は、
スギですか。

大西社長の話 そうです。以
前、買っていただいた、直径が1
メートル以上ある樹齢100
年のスギの丸太を製材して、乾
燥させておいたものです。やは
り100年ぐらい経っていない
と、目が細やかなものは取れま
せんね。どこそこのお宅に使お
うと買っておくのではなく、森
林組合とかから、良い木がある
から見にこないか、と声をかけ
られて、気に入った木を買って



玄関ホールに建つスギの木目が美しい、和の趣たっぷりの格子戸と引戸



二間続きの仕切りを6枚戸にすることで広々とした開口を実現



和室の入り口を開け放てばリビングと連続する広い空間が生まれる

「おくわけです。それを今回はK様邸の建具に使用しました。大黒柱や梁のケヤキもそうです。作業場で自然乾燥させておいたものを使用しました。時間が経つほどにいい色が上がってくるところが本物の木の味わいですね。そこにこだわるのが当社の家づくりです。クロスや貼り物で仕上げるならどこの工務店もできますからね。」

PACS
Perfect Architecture Consulting System

建築組パックス株式会社

八戸市大字新井田字石動木平1-1
TEL.0178-25-6020 FAX.0178-25-5542
<http://www11.ocn.ne.jp/~pacs>
E-mail:pacs@sage.ocn.ne.jp



建築組パックス 有限会社



寅谷 様邸

ユーザー訪問

DATA

三戸郡階上町
2013年12月竣工(リフォーム)
■リフォーム面積/9.49坪(31.43㎡)
■使用青森県産材/スギ(柱、床、天井)など。



「もっとはやくやればよかった」と寅谷様もご満悦のリフォームが実現

昔の和室はたいがい普段は使わない場所に設けられている。来客の際には広く使おうと二間続きになっているが、仕切りの襖を開放してお客を迎え入れる機会など減多になるのが一般的。『青森県産材でエコな家づくり』Ⅲで紹介した成田和久様邸(上北郡おひ

らせ町)も、今回紹介する寅谷様邸も、使っていないなかった続き間をワンフロアのLDKにリフォームした。引越せず、居ながらにして工事できるのもリフォームの利点で、「こんなに良くなるんだったらもっとはやくやればよかった」とご満悦の寅谷様。床も天

井も無垢のスギを張って明るく暖かく生まれ変わったリビングでお話を伺った。
**床、壁、天井に断熱材
「新築みたいに暖かい」**
奥様の話 リフォームしたいとはずっと以前から思っていた



新築同然のワンルームに生まれ変わったリビングルーム。掃き出し窓から陽が入ればストーブなしでも暖かい

した。とにかく寒くてね。仏壇にご飯を備えているうちにもう身震いするくらい寒さが染み込んで、隣の台所に逃げ

込んだものです。その台所も、ストーブがあるからまだましで、でも窓が小さいから暗くてね。台所を隣に移し、二間続き

の仕切りを取り払ってワンルームにすれば、南側から陽が入るようになるし、はやく直したいとは思うものの、いざとなると

なかなかきつかけがね。今日明日に直さなければ住むところがないというわけでもないし……。

——大西さん(大西昇社長)とはご親戚だそうですね。

奥様の話　そうです。パックスの見学会にお邪魔して新築の家を何軒か見学させてもらいましたけど、床や天井に木が見えている雰囲気が入りませんでした。でも、リフォームでもこんな感じにできるのかなって思いながら見学していましたよ。大西さんから、「ちょうど今手が空いているのでリフォームしませんか」と声をかけられたのがきつかけで、それじゃ、と腰を上げました。

二間だけと簡単に考えていましたけど、外壁をはがし、天井も内壁も床もはがし、わずかに柱だけが残った状態でしたからすごい手間がかかりましたね。部屋を包むように断熱材を入れてくれたお陰で、今こうしてリビングのテーブルに座って



床に断熱材を敷くことで断熱・気密性は格段に改善された



腐っていた大引を新しくするなど目に見えない部分も補強

いられますけど、前だと、寒くて寒くてね。リフォームの後は、掃き出し窓から陽が射し込めばストーブなしでも暖かいですし、新築したみたいですよ。

大西社長の話 40年前だとまだ断熱材は入っていませんでしたからね。そのくらいの築年数の家をリフォームするとなる

と、天井も外壁も床も剥いで断熱材を入れる工事は不可欠です。寅谷様のところは床下も結構腐っていましたので、大引も根太も撤去して、新しく敷き替えました。リフォームは、そういう目に見えない箇所にも手が入るので、坪数の割にはコストがかかりますが、それでもまつ

たくの建て替えよりは格段に安く済みます。

リフォームしませんか夫婦だけの終の棲家へ

——建て替えは夢とあきらめていても、必要な空間だけをリフォームするとなると、手が届きそうな気がしてきます

ね。

大西社長の話 団塊世代も定年を迎え、現役で働いている頃には関心を持たなかった「我が家」と向き合う時間が増えました。そうになると、ああしたい、こうしたい、と目に付く箇所が出てくるのではないのでしょうか。

築年数が30年を超え、子供が育って、夫婦二人だけには広過ぎる住まいをどうにかしたい、とか、趣味に打ち込める空間がほしい、とか。そうは願うものの、ローンを組んですぐに「新築」とはいかない、といった状況の方が多いと思います。

残された時間を有意義に過ごすための生き甲斐を住まいに求めている——そんな熟年世代の要望を、若者向けの住宅を建てている設計者はうまく聞き取れないようです。年輩者には、自分たちが育った頃の本物を使った古民家風の家とか自然素材の家が馴染むに違いありません。

子育て中は思いもしなかった



目にやわらかなスギの木目を生かした建具や台所の収納扉

“自分たちだけの家作り”を今こそするべきです。趣味で始めた畑から収穫した野菜を漬け物にしたいとか、家で焼き物をやつてみたいとか……。それを叶える、熟年世代だからこそできる、自分たちだけのための家作り。

そこで、建築組パックスでは、介護までを見据えた“終の棲家”の家作りを提案します。それが、リフォームです。夢とあきらめていたことも、リフォームなら低予算で実現できるので。

当社では、昔からある“手刻み”による家作りをしています。その技術は古い家を直す際にもいかに発揮できます。構造材はそのままに、補強や手直してまるで新築並みにきれいに仕上がります。冷たい化粧合板フロアから温かい無垢のスギ床へ、また壁のクロス貼りから漆喰や珪藻土仕上げへ、すべて本物にこだわったリフォームが可能です。



建築組パックス有限会社

八戸市大字新井田字石動木平1-1
 TEL.0178-25-6020 FAX.0178-25-5542
<http://www11.ocn.ne.jp/~pacs>
 E-mail:pacs@sage.ocn.ne.jp

